

(発行所)
全国港湾労働組合連合会
 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
 日港福会館1F
 電話：03-3733-2561
 FAX：03-3733-2627
 発行人：玉田雅也
 定価：30円(組合費を含む)

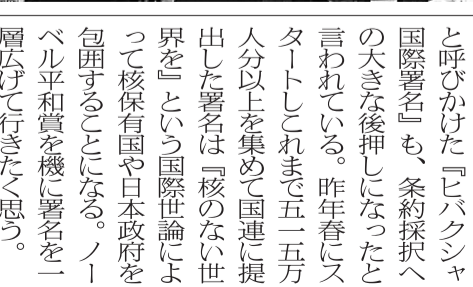
(毎月1回15日発行・平成7年8月18日)
 第三種郵便物認可
 2017年11月15日 第296号

全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN
 (ZENKOKU-KOWAN)



E-Mail: nfduj@zenkoku-kowan.jp



17秋年末中央要請行動

院内集会で国会議員に協力要請



全国港湾と港運同盟は、十一月二十一日(火)から二十二日(水)にかけて「17秋年末闘争中央行動」を取り組んだ。
 取り組みは、国土交通省、厚生労働省、経済産業省、消防庁への行政交渉。ユーザー・船社である日本貿易会、外国船舶協会への要請行動と衆議院第一会館多目的会議室での院内集会を行った。
 この行動には、中央執行委員、京浜三地区港湾を中心に各地区港湾代表の100名あまりが参加し、港湾政策や港湾運送における諸課題を訴えた。

行動の第一日は、二十一日(火)十三時から行政交渉、ユーザー要請に先立ち国土交通省前に行動班100名余りが参集し、意思統一集会が開催された。
 集会では、主催者を代表し全国港湾系委員長および港運同盟新屋会長から中央行動に際してのたたかう決意表明を受け、系谷委員長「団結カンパロー」で行動班は各省庁、ユーザーへ向かった。
 行動は、各参加者を振り分け、十三時三十分から国分府前、十三時三十分から国土交通省、十五時三十分から厚生労働省に五十二名、交際、ユーザー要請に先立ち国土交通省前に行動班一〇〇名余りが参集し、意思統一集会が開催された。
 集会では、主催者を代表し全国港湾系委員長および港運同盟新屋会長から中央行動に際してのたたかう決意表明を受け、系谷委員長「団結カンパロー」で行動班は各省庁、ユーザーへ向かった。
 行動は、各参加者を振り分け、十三時三十分から国分府前、十三時三十分から国土交通省、十五時三十分から厚生労働省に五十二名、交際、ユーザー要請に先立ち国土交通省前に行動班一〇〇名余りが参集し、意思統一集会が開催された。

第二日は、二十二日(水)十一時に、二〇名をほかるため開催された。はじめに、主催者挨拶に続き、系谷委員長は「港運労働者の雇用と就労を守ろう！17秋年末闘争中央行動」の要求を動かすのは、力のかかる事。何を力にするのかを考え、しかる時が来る。地方の運動が中央交渉を推進した。また、港運同盟新屋会長からも挨拶を頂いた。その後の各政党議員から

民主党・国対委員長)のお取り計らいで実現した。集会は、立憲民主党、尾辻かな子(衆議院議員)、日本共産党、山添拓(参議院議員)、宮本たけし(衆議院議員)、社会民主党、吉川元(参議院議員)、沖繩の風、伊波洋一(参議院議員)、自由党、森ゆうこ(参議院議員)の各政党議員様に御列席を頂き、港湾行政に対する私たちの政策要求の前進をはかるため開催された。はじめに、主催者挨拶に続き、系谷委員長は「港運労働者の雇用と就労を守ろう！17秋年末闘争中央行動」の要求を動かすのは、力のかかる事。何を力にするのかを考え、しかる時が来る。地方の運動が中央交渉を推進した。また、港運同盟新屋会長からも挨拶を頂いた。その後の各政党議員から

辻元清美衆議院議員

尾辻かな子衆議院議員

山添拓参議院議員

宮本たけし衆議院議員

森ゆうこ参議院議員

吉川元衆議院議員

伊波洋一参議院議員

国土交通省交渉



今年のノーベル平和賞は核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が、核兵器禁止条約成立への貢献を評価され受賞した。条約は核兵器の使用はもろろん、製造から保有までを広く禁止する。五〇カ国以上の批准を経て、来年中の発効が見込まれる。このことは、核兵器廃絶への歴史的な一歩を踏み出したと言えるが、核兵器保有国や日本は参加していない。不参加の理由として、日本政府は「条約が核保有国と比核保有国の溝を深める」ことを理由にしているが、実際には米国の「核の傘」に配慮したのだらうと言われている。核保有国不参加の理由は、条約が発効すれば「核兵器は非人道的で、違法」が国際規範になる。つまり条約に背を向けている核保有国やその同盟国に対し、国際社会が「人の道に反したことをするのだから」と問うことになる。核兵器禁止条約への動きは国内外の被爆者が「核兵器の廃絶」と呼びかけた「ヒバクシャ国際署名」も、条約採択への大きな後押しになったと言われている。昨年春にスタートしこれまで五二万人分以上を集めて国連に提出した署名は「核のない世界」という国際世論によって核保有国や日本政府を包囲することになる。ノーベル平和賞を機に署名を一層広げて行きたいと思う。